

1. 南アルプス大井川源流部の環境とリニア中央新幹線について

出典・静岡市 水生生物への影響の代償措置について

水生生物への影響の代償措置の考え方

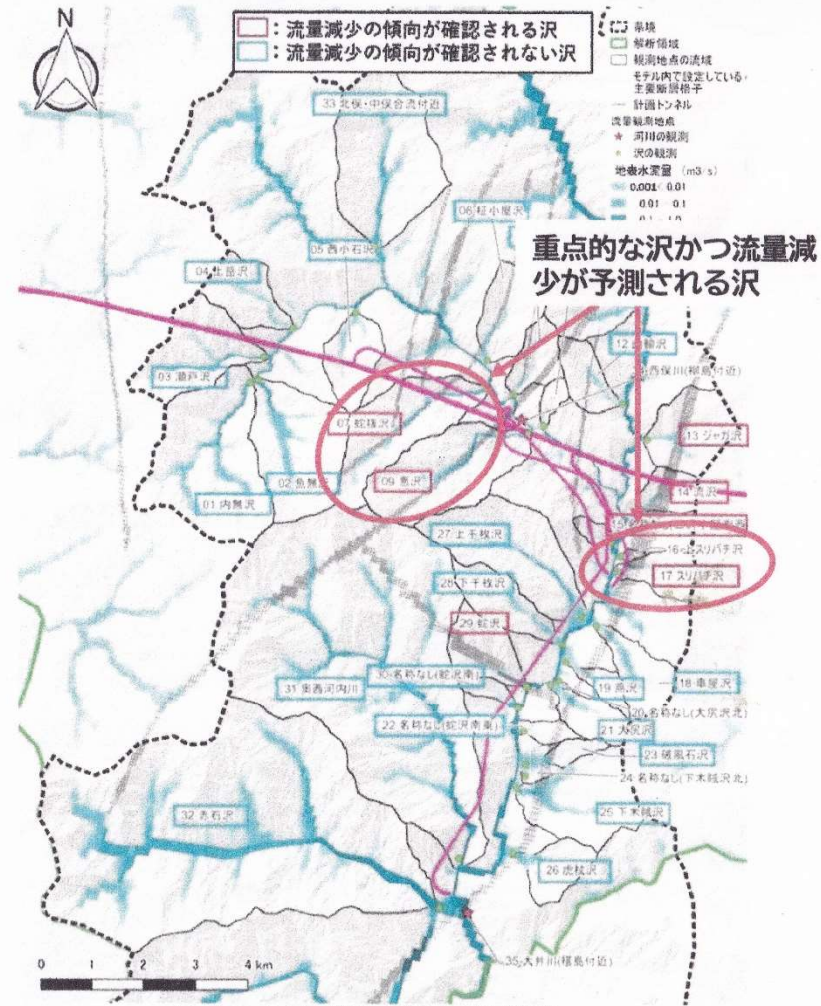
(リニア工事による影響)

トンネル掘削により、地下水位が低下し、沢の流量が減ることで、ヤマトイワナ等の水生生物の生息場所や個体数が減少する可能性がある。

「重点的な沢」かつ「流量減少が予測される沢」(悪沢、蛇抜沢、スリバチ沢)をはじめとする33の沢で流量や流況変化のモニタリングを行い、水生生物への影響を評価する。

(代償措置の方向性)

- これまでの動植物調査や、専門家への聞き取り等により、ヤマトイワナの生息域や、交雑種の生息域について確認する。
- 現地調査により沢や周辺の生息環境を確認し、生息場所の保全方法を検討する。
- 現状が続くと交雑は進み、ヤマトイワナの生息域が減少していくと予想される。
- リニア工事によるヤマトイワナの生息数の減少を上回る形で代償措置を実施する。
- 流量減少の可能性が低く、交雑が進んでいないと予測される場所について、交雑を防止しつつ、ヤマトイワナの生息環境の保全を行うことが、代償措置として有用かつ機能すると考えられる。



出典：第27回リニア中央新幹線静岡工区 有識者会議(2023.11.7)P3-35
静岡市が一部追記(赤丸)